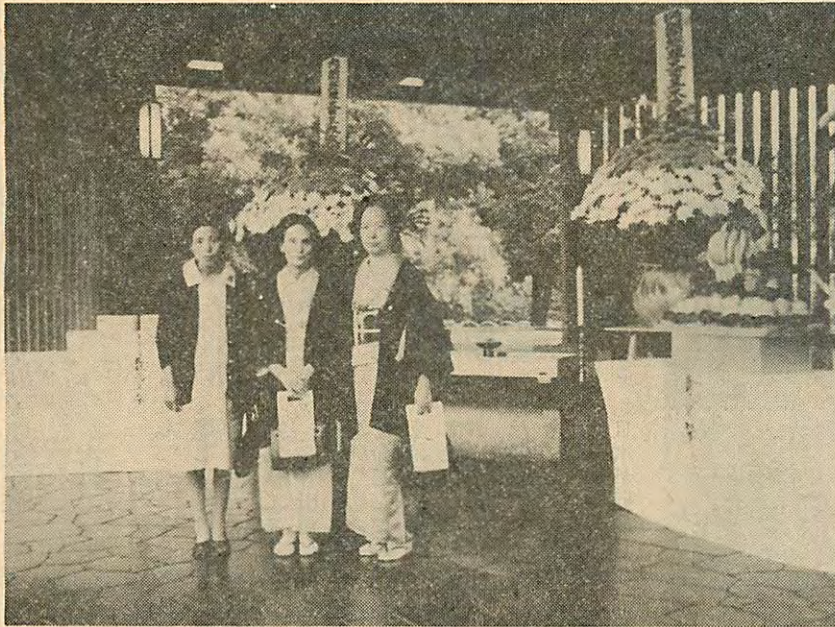


千鳥ヶ淵墓苑にて(向って右より望月とよ子様、藤田きよせ様、きよせ様の妹)



マーシャル方面遺族会
 (旧クェゼリン方面戦没者遺族会)
 郵便番号 154
 世田谷区野沢 3-11-3
 電話 東京 (424) 4300
 振替口座東京 0-93487 番
 編集兼発行人 浮田信家

二世の務め

秋山正清

あの壮烈悲慘を極めた、マーシャル方面諸島の戦闘があったから約33年を経過し、その中に、その事実は大東亜戦争の中の一駒、日本歴史上の一駒、世界歴史上の一駒、人類史上の一駒となることでしょう。然し乍ら私達遺族の傷心は今尚昨日の如く、生きて居る限り消えるものではありません。

十数年前に私達遺族が相寄って、この遺族会を結成して以来、毎年靖国神社神前に於いて慰霊祭を実施せられ、後世に残る慰霊碑を現地クェゼリン島に建立せられ、又念願の現地墓参も実現せられました事は、之偏に浮田様を中心として猷身的な御世話を戴いた方々の御蔭であり、深く感謝致して居る次第であります。今後共私達遺族は、マーシャル諸島の環礁の様に、丸く環に集って、心を一つにして、戦没者の慰霊顕彰を続けて参りたいと存じます。

私は本会の慰霊祭を始めとして各地で行って下さいます慰霊祭に参列致します度に、私達遺族は御英霊に対して何をなすべきかと考えるのですが、根本的には御英霊の念願なされて居られた事を達成して差上げることが、戦没者の死を無駄にしない事であり、最も御英霊を御慰めする事になるのかならうかと思うのです。

御英霊は何を念願されて護国の鬼となられたのでしょいか。祖国の防衛と安全であり、世界の平和であり、将亦遺族の幸福ではなかつたでしょうか。

幸い本会に於いては、私達遺族の気持を結集して、一人一人では到底出来ない戦没者の慰霊顕彰の諸行事、事業を執行して下さって居り、感謝に堪えない次第ですが、私達遺族個々の家庭に於いても、御英霊の念願に^{こた}える様に努力して、御英霊に安心して戴くと共に、御英霊の忠烈義勇の大精神を子々孫々にまで伝えることが大切でなからうかと考えます。特に二世の務めではなからうかと存じます。

振り返って私自身を省みます時、何ら実行出来て居らず、実にはづかしい次第ですが、かねがねかくありたいと思っておりますので、敢えて申し述べた次第です。

(第六根拠地隊司令官秋山門造海軍中将の長男・観音寺市)

目次

- 二世の務め……………秋山 正清(1)
- 升田仁助海軍少将の追想
- その二……………古木 秀策(2)
- 遺族会を探し当てたその喜び
- その一…宮崎 井上由美子(3)
- その二…東京 小早川宗一(3)
- イ号32潜水艦ウォッセ島への食糧輸送…神奈川 土屋 太郎(4)
- 遺族会を探し当てたその喜び
- その三…宮崎 山内 キク(5)
- その四…静岡 山田登よ子(5)
- その五…熊本 岩村 光男(6)
- 戦記シリーズ
- シリーズの 13、14
- 現地訪問希望についてお尋ね…(7)
- 遺族会を探し当てたその喜び
- その六…鳥取 石賀 宗美(8)
- 九五二空慰霊祭…事務局(9)
- 昭和52年2月6日の御案内…(10)
- 寄付者芳名……………(11)
- 会員だより……………(11)
- 事務局だより……………(12)

升田仁助海軍少将の追想 — その2 —

古 木 秀 策

私はヤルト島民処刑事件の責を負い、グアムのストッケードで一年半の間ありとあらゆる虐待を受けたが、老い衰えた陸海軍の将官達が筆にするも忍びない辱めを散々に受けたあげくの果てに処刑されてゆくのを見送り乍ら、升田司令が此の辱めを受けずに、ヤルト島で亡くなられたのを心からよかったと思わずには居られなかつた。自決された時司令の黒い表紙の小さい手帳に次の趣旨の事が鉛筆で認めてあったのを記憶する。

「余はヤルトの主として太陽として、諸子と共に草根を食み、海水を飲

んでヤルト基地死守の大任の為に奮戦し、それを完うしたこの島で、親愛なる諸子に囲まれて、最期を遂げるのは本懐である。」

「升田司令の様に温い豊かな人間性を持った人が、それでは何故捕虜処刑を命じたのか」と問う人があつたら、私は次の事を考えて頂くようにお願いしたい。それは終戦の日まで伝統として、信念として日本国民を支配していた捕虜に対する観念と、玉碎という理念、これに関連した厳しい軍刑法の規定、ゼネバ条約の捕虜に関する条項を日本が批准しなかつた経緯、太平洋戦争勃発後日本政府は連合国側に「日本は同条約を批准してはいないが準用する」と回答して居り乍ら、それを軍隊一般

に伝達し、徹底させる為にどんな処置をとったのかという問題、それから当時ヤルトが置かれていた急迫した戦況等これである。尚クゼリンとヤルトの間の舟艇連絡が可能であつた時はヤルトで得た捕虜はことごとく後送されていた。

飢餓と砲撃と敵の謀略と死の跳梁の下で苦闘したヤルトの生活は悪夢の如き思い出である。それにも拘らず升田司令の直接指揮下に服務し、起居を共にし得た事は、私にとって他の何物にも換え難い喜びである。概して愉快だったとは言えない十四年間の軍人生活の最後に、私は初めて心服し得る徹底した責任観念と純一無雑な軍人精神を持った指揮官であると同時に、最も清純誠実な心をもつた日本人である升田司令を知り、且つその人に信愛されたのだから。

昭和27年10月5日
升田海軍少将自決の日、巢鴨獄窓にて記す。

ヤルト防備部隊歌

作詞 古木 秀策
作曲 佐藤 隆臣

集へる健児数千人

二、元寇以来七百年

今興亡の秋いたる
臥薪幾年つづくとも
苦難の嵐ふみ越えて
戦はんかな皇国の
南進基地を守るべく

三、敵ヤルトに寇せんか

千万人も吾往かん
必死必中体あたり
千殺を期す我が備え
いざや試さん君国に
捧げし此の血此の心

四、炎熱肌を焦す日も

驟雨骨身に沁みる夜も
敵機来れと灼熱の
闘魂胸に陣を布く
対空員の雄姿こそ
実にヤルトの華なれや

五、雨霽々の闇の中

風烈々の星の下
怒濤を越えて敵弾を
潜りつ重き海上の
輸送にあたる舟艇員
これ海国の真男児

六、不毛砂礫の土地拓く

鋤に不撓のひびきあり
林産魚撈等島民の



（遺影説明）
升田仁助海軍少将

明治24年10月25日山口県大島郡東和町字西方で誕生され、昭和20年10月5日マーシャル群島ヤルト環礁イメー1ジ島で自決された。お墓は故郷の菩提寺神宮寺にある。

一、皇土はるかに一千里
太平洋の波の上

蕞爾たれども皇国の
東南護る一要衝
ヤルト防備の命承けて

業なす人の苦やいかに
糧得る途に黙々と
たゝかふ人の汗尊

七、自活警備とそれ〴〵に

途異なれどヤルトを
まもる心は唯一つ
結びて固し鉄の如
進まんかなや諸共に
升田司令の指揮の下

八、あゝ草蒸すも水漬くとも

など願みん此のかばね
ヤルト護る誠心に
天神地祇の加護うけて
いざ戦はん皇国の
永久の勝利を迎ふべく

番外、敵機遡へぬ六千機

弾丸痕も著るく
薫風月に吟じたる
椰子の葉蔭は今いづこ
島の容は移ろへど
移ろふべきや我がが壯死

後記 昭和19年11月某日夜、離島巡視

中カヌーの上で私はこの歌を作り、本
部に帰って浄書して司令の評閱を乞う
た。司令は「ヤルトの現況をよく現
わしてあり、志気を鼓舞するに役立つ
から防備部隊の歌にしよう。『敵機遡
へぬ六千機』の一節は内容は真に迫り
詩情に富むが悲調を帯びているから、

又これをいれると全部で九節となり、
九は苦に通ずるからこれは除いて番外
としよう。」と言われた。曲は橋中佐
の「遼陽城頭夜は更けて」は如何との
案も出たが哀調を帯びていて面白くな
いとて、佐藤海軍々医大尉の作曲を採
用された。爾来毎月の演芸会の初めに
は「君が代」を、終りにはこの歌を司
令以下全員が、合唱するのが慣例とな
って終戦まで続いた。

遺族会を探し当てたその喜び

—その一—

宮崎 井上由美子

(大槻とき子様ご紹介により51年10
月3日はじめて本会を知る。)

この度は思いがけない貴重な靈砂を
頂くことができました。厚く御礼申し
上げます。横須賀に住む義兄貴島為夫
様から父の戦死した島に八月頃行かれ
る方があると聞いておりました。お便
りにより遠い異郷の地、かつて父が歩
き、暮した土地を知ることができまし
た。父を知らずに生長した私にとっ
て、父を知ることが、万感胸にせまる
思いでございます。遠く三十余年の
昔、若き父がこの靈砂の島で、お国の
為に、とすべてをなげうってくれたこ

この歌を作るに方り特に意を用いた
ことは、升田司令の指揮の下に全防備
部隊々員の一致団結を希って、海軍と
か陸軍とか軍属とか邦人とか言う言葉
を一切避けた事だけである。

昭和49年7月13日
升田司令の墓参前夜、古木秀策記す。
(筆者・南洋第一支隊第二大隊長歩
兵少佐・現住松山市)

とを偲んでいます。

本当に私達にとつて忘れることの出
来ないクエゼリン島であります。二月
六日靖国の父と面会ができますよう頑
張ります。浮田様はじめ多くの方々の
善意に心から御礼を申し上げます。環
礁は母と共に涙ながらに読ませていた
だきました。母一人父亡きあとを二人
の女兒のため頑張ってくれた母も今年
は60歳です。何の親孝行もできないま
ま30歳を過ぎた私に一つの大きな力を
与えて下さった会長様。父の戦死に報
ゆるにあまりに小心であることに気付
きました。これからもっともっと頑張
ってまいります。

(筆者・クエゼリン島、61警備隊、
戦歿者井上三之助殿の次女)

—その二—

東京 小早川宗一

(9月1日世田谷区梅ヶ丘の小早川
宗一様から電話をいただきました。
内容はかねてから父戦死について、
詳しい情報を知りたいと思い、厚生
省にゆき尋ねたところ、それならマ
ーシャル方面遺族会に行けばわかる
と聞いたのでお尋ねしたとのことで
した。

10日はとして宗一様が本会に來られ
たので、創立以来の事をお話し、環
礁は申すに及ばず、写真、靈砂等
所望され喜んで持ち帰られました。
10月11日宗一様から左のお便りを受
けました。)

「先日は突然お邪魔し、ご迷惑をお
かけしました。生憎くお手紙を頂戴し
た前日から、二週間ほど関西から九
州へと出張いたし、御礼のおくれまし
たことを深くお詫びいたします。
詳しい資料や珍らしい現地の写真な
ど沢山いただきました。母共々嬉しく拝見さ
せていただきました。私も機会を作っ
て是非一度父の眠る現地を訪問したい
と考えておりますので、その節はどう
か御指示や御指導の程お願い致しま
す。遺族会の実在を承知し心づく喜
んでおります。

(筆者・マロエラップ島・四施従軍
中戦死の小早川惣一郎殿の長男。本
籍熊本・母とめ様と三鷹市に現住)

イ号32潜水艦ウォッセ島への食糧輸送

篤志会員 土屋 太郎

土屋様から大上様への書簡

拝啓 環礁25号でお名前を伺いました。私は福山市出身の者で終戦時ウォッセ島にいましたので当時の想い出を書いてみました。

18・12・3 ミレ島からウォッセ島に移りました。

19・1・30 クエゼリン・ルオット攻撃部隊の一部が早朝からウォッセ島にも攻撃を加えて来ました。

19・2・6 クエゼリン・ルオット島が玉砕しました。

19・2・12 飛行艇が二機来てパイロットと電信員を連れて帰りました。(後日聞いたところによると、この飛行艇は二機共帰還できなかったそうです)

19・3・1 7割に減食。

19・3・20 トカゲを始めて食べました。内地にいる小さなトカゲと同じです。鼠はその後随分食べました。

19・3月上旬 「3月23日(予備25日)潜水艦が作戦の途次ウォッセに寄り、食糧などを補給する」という電報が入りました。そこで

19・3・23 の夜相田大尉、植松少尉など約20名の人が、全長10米余りの小さい発動機船で、知らされた場所

にいきました。

すると予期していたとおり、潜水艦らしいものが見えたので、電報で指示されていたように、懐中電灯で大きく円を書いて合図をしました。すると途端に向うの艦から発砲して来ました。アメリカの艦だったので。幸いこちらの船に命中しませんでした。皆驚いて帰って来ました。この様子では25日も恐らく駄目だろうと思っていたところ、果たして

19・3・25 になってから「今回の補給を取止める」との電報が来ました。しかし潜水艦が沈んだのか、敵の警戒が厳重のためかは分かりませんでした。ちなみに24日夜も25日夜も同じ方向に砲声聞いていました。結局潜水艦による補給は失敗しました。

19・4・1 朝7割、昼3.5割、夕7割に減食。

19・4・15 朝6割、昼3.5割、夕6割に減食。

19・5・5 米軍機が宣伝ビラと魚の缶詰を散布して降伏を勧告しました。

1月30日から連日爆撃や艦砲射撃を受け今にも敵が上陸して来そうだった

ので、重要な暗号書は全部焼却処分しました。そして残っていた簡単な暗号書で連絡をとっていたので、こちらの子定は敵に全部分り、このような結果になったものと思えます。したがって日本の潜水艦もおそらくその前日位に沈められたこととせう。

その後減食による減食と連日の爆撃とで当初三千名余りいた軍人軍属中、生還した者は千名位。大部分の人は栄養失調で亡くなりました。

ウォッセ島の状況をお知らせしたのみで余りお役には立たなかったことと申します。私もすでに還暦となりましたが当時のことはつい先日のように思い出されます。無事生き永らえながら、時折靖国神社にお詣りするのみで何らの奉仕もできないことを恥じています。

昭和51年7月31日
大上様から本部への書簡

昨日は大変御親切なお便り戴きました。有難うございました。土屋様のお便り読ませていただきました。

①戦死公報は只南洋群島方面にて戦死のみでした。厚生省へ再三手紙を出し又その時マシーナル方面遺族会のあることも聞き、それから浮田様に御無理をお願いし現地の様子も委しく判り、皆様御苦労なされたこと、只感謝あるのみでございます。有難うございました。

②そして土屋様の日付の入りました委

しいその当時の様子。ウォッセに居られた土屋様。それにウォッセに向って食糧を運んでいた潜水艦乗員の主人、艦長以下65人、残念であったことと申します。死を覚悟して行ったのに、せめて食糧を陸揚げして帰路についた時ならウォッセの兵隊様何十人いや何百人と言わなくとも、懐かしい故郷へ帰られたことと思います。只々残念で御座います。

土屋様の書かかれています日付は第32潜水艦戦死報告書、第6艦隊司令長官報告の日時、行動と全く一致しています。土屋様によって、主人の戦死場所が一段とよく判りました。それは皆マシーナル方面遺族会浮田様のお蔭と喜んでいきます。有難うございました。

③土屋様の方へお便りを出しました。色々書いている中四頁も書いてしまいました。土屋様大変ご苦労なさっていました。戦時中を想像しながらペンを走らせています。何かのとき土屋様によくお伝え下さいませ。乱筆お赦し下さいませ。

④先日落合ハギノ様環礁送って戴きありがとうございました。14日には主人の墓詣りをし、そして落合様のところにも行ってまいります。

51年8月14日

(筆者・第六艦隊・15潜水隊・イ32潜水艦、戦死者大上一稔殿の妻)

遺族会を探し当てたその喜び

—その三—

宮崎県 山内 キク

私、突然でございますが、お手紙を差し上げます事を御許し下さいませ。

昭和48年11月沖繩日向の塔慰霊祭に県代表として参拝させて頂きました。鹿兒島の岸壁を離れた船が南へ南へと向いますうち、私は主人の戦死した南方に近付いて行く様な心地で、このままマーシャル群島まで行き度い位でした。途中で海上慰霊祭もありまして、将兵の皆様御苦勞様でしたとみたまの安らかなねむりを祈りつつお花を捧げ乍ら涙に咽んだあの日の想ひ出が昨日の様に浮んでまいります。昔の人が光陰矢の如しとか申しましたが、月日の流れに淀み無く、終戦になりまして早三十年過ぎました。

私の主人は20年1月9日に、マロエラップ島にて戦死致して居ります。当時三歳の長男を形身として、苦難と戦って生きて参りました。今では三人の孫と六人家族で、私も六十のお婆ちゃんになろうとして居ります。今日私共が生活して行けますのも、将兵の皆様方の尊い犠牲のあった事を忘れる事は出来ません。いつか夫の戦死した所へ行って墓参がしたいと思いつづけて居

ります。

都城に居ります私の実弟が私の子供に、「自分は現地へ行って戦友の墓参をしなくては誠に濟まない、死ぬはづの自分だったのに……元氣な内になんとかして行くからその時は正陸前も一緒に行く」と申します。私も共に墓参がしようございます。弟は主人と同じマロエラップにいて終戦になってかえって来た傷痕の身体です。墓参がしたいと話した乍らも外国のこと故、どうして手続き等したら良いのか解りませんので、市内の南方方面戦死者の御遺族を尋ね廻る内にマーシャル方面遺族会の出来ている事を知りました。その時の嬉しかった事を、お察し下さい。それで早速拙い筆をとりました。私も入会させて頂き度う御致します。誠に勝手なお願ひでございますが、マロエラップに墓参に参りますにはどの様な方法で、手続きをしたら行けますでしょうか。又そちらの遺族会の方が行かれるとき同行させて頂いたら幸と存じます。

なお、何時頃行けますでしょうか。旅費、経費等、幾ら位かかりますでしょうか。御多忙な毎日と遠察申し上げますが、御返事戴き度うお願い申し上げます。

—その四—

静岡県 山田登よ子

(51年9月18日)
(筆者・63警備隊山内正文殿の妻)

(51年9月2日静岡の会員服部くによ様より本部宛書簡)

私たちにとりまして心のよりどころになる会のあることは本当に何物にもかえがたい喜びであり、幸せでございます。つきましては友達のごことで一つお伺いしたいと存じます。

1 戦死したご主人の氏名は山田秋男

2 部隊名は幸五七四部隊(陸軍)

3 戦死は昭和18年5月20日

5月1日に宇品を出発し、ヤルイト島上陸直前に敵の魚雷を受けて船が沈み亡くなったのだそうです。

先日私の所に遊びにみえた折、遺族会の話をしたところ、とても羨やましが、私も仲間に入れていただけないか、とのことで、お尋ねいたしました。お忙しいところ本当にお手数をおかけしまして申訳ございません。お返事いただければありがたいと思えます。よろしくお願ひ致します。

山田登よ子様より本会宛書簡
突然お手紙差し上げます。

先日服部様から種々お世話いただきまして、そちら様に大変お骨折をいただき誠にありがとうございます。そちら様のお骨折りで、主人の霊もさぞかし喜んでいられることと、この秋の

彼岸を前にして気持の軽くなるのを覚えます。

仰せのように主人は上陸を前に洋上にて沈んだという報をいただいております。数年前生還された戦友の方々がお慰霊祭を行って下さいまして、その折いただきました書類があればと思いい探しましたが、今のところ見当りません。不充分的な御報告で御迷惑をおかけいたしますが、何とぞよろしくお願ひいたします。

又昭和46年12月26日の日付で厚生省援護局中村一成様から写真とお手紙をいただきました。中部太平洋のマリアナ及びマーシャル諸島の遺骨収集派遣団により追悼式を行われた写真でした。その記事ははからずも服部くによ様に見せていただきました環礁、47年7月1日発行マーシャル方面遺骨収集報告厚生事務官千葉秀夫様の記事と同じ文面及び写真でございましたのでお知せ申し上げます。

どうか今後共よろしくお願ひ申し上げます。秋も深まりお寒い日も間近と存じます。
(51年10月8日)

(筆者・陸軍幸五七四部隊。ヤルイト上陸直前戦死。山田秋男殿の妻)

—その五—

熊本 岩村 光男

私は、熊本の栗山太郎氏より環礁を見せて頂きました。そして自宅に電話致しました。今日貴殿より詳しいお

便りに接し感無量であります。私の胸の中には、あのクエゼリンに初めて入港した日の事が忘れられません。

海軍通信学校第57期を、昭和16・11・11に卒業し同日、第六通信隊付を命ぜられ同じ57期の同年兵75名と共に、12月3日東京芝浦港を出港しました。六〇〇トンの箱根山丸には、ルオットに行く22航戦(24かも)の整備員も同乗し、一路南に航海を続けました。12月8日が私達にも参りました。大戦果を船の上で聞きました。さあそれからが大変です。

必ず敵が来る。折から12月と云うのに海の上は夏です。舷側を洗う海の色はもう内南洋近くの黒潮です。紺色の海です。船の上ではドラム缶に真水を入れ、漂流の時にそなへています。その作業中にも船は、どんどんクエゼリンへ、マーシャルへ進んでいます。必ず敵に出会う。出会いませんでした。

12月16日、私達の船は先ずマジュロに入港しました。夜に。そして、その海軍設営隊の宿舎で映画を見ました。蚊の多い島でした。早朝の出港。その翌日、南海独特のスクールが来ました。そしてそのスクールの上が行くかあなたに、虹が出ました。島は見えませんが。船は入港用意をやっておりません。あ、虹のそばに無線塔が二本見えました。その下に平らな椰子の生い繁った島があります。六通送信所(イスブージ島と云いましたか)がス

クルの晴れ間に見えて来ました。ああはるばる来たものか、そこがマーシャル諸島である事も、又クエゼリン環礁なる事もまだ知っている者は一人もいませんでした。

私達の船は、内海に入港しました。すぐ土人がカヌーでやって来ました。この島には、椰子の実だけしかありません。すごくきれいな海の色、土人のカヌーの椰子の実の青い色、そして今から私達のやる仕事は、モールス受信には自信のある者ばかり75名、ハリキルぞ。はじめに申し上げました様に、私はクエゼリンに入港した日の事が忘れられません。

紺色の海、椰子の木、低い白い島、その島に足をふみ入れました。そまつな兵舎(木造)が、島のやや南よりの中央部にありました。私達の先輩が、防着服で待っていました。私達はすぐ電信室に入りました。受信機は、短波の日本最高のものがズラリ並んでいます。かすかにレンジャーよりもれてくる、あの独特の音色。ピーピピットンツートン。外信班の部屋は別室です。ハワイの無電が、通信学校の練習の時の様に極めて良い感度で受信出来ます。それを東京通信隊に、どんどん中継しています。

日本海軍では大和田通信隊(東京)の次が、この第六通信隊と云う順で重点を置いています。ハワイの敵信を、この位受信状況の良い処はありません。

当直がすめば夜食。蚊にササレないための防虫クリーム、その当時としては最高のものが用意されていました。全く、ハワイに近い島で、今戦争が行はれているのだろうかと思われ

位、平和な楽しい毎日でした。私の記憶では、外信班に大学出の若い士官が居られましたが、林大尉もきつとその内に居られたと思います。しかし、昭和17年2月1日の早朝にこの平和な島に、突然とんでもない事が起りました。

私は、デング熱で兵舎の一部の病室で、熱がやつとさめかかり吊床の上でうとうととしていました。午前4時30分頃、私の体が吹きとばされたと思う位強烈な爆風が起りました。とびおきて外へ出ると、第六根拠地隊司令部の庁舎より茶色の煙が上がっています。司令部に爆弾命中。司令官即死。

折からキーンと云う音がすぐ近くの港の方でもします。目を港の上空に向けると、垂直に急上昇している、ドーンとレス艦上爆撃機が見えます。この小さい島に敵空母機よりの空襲です。港の中の船がやられています。午後、ずぶぬれの負傷者が十数名病室に来ました。船が沈んで、泳いで岸に向って泳いでいる者の内、サメにやられた者もかなりあった模様です。

この空襲は、エンタープライズ、ホーネットよりのもので、指揮官はあのハルゼーだった模様です。

この後、私が18年1月5日軍艦川内に転勤する迄空襲や敵襲等あった事はありません。戦時給与品のビール、ブドー酒等を月夜の海岸で、同年兵と汲みかわしたあの頃。毎日やって来るスクールの後の椰子の実ちぎり。夜の魚釣り。想い出はつきません。

苦しい事もありましたが、今は楽しかった事ばかり想い出されます。昭和18年11月2日、私の乗った川内は、ブーゲンビル沖で敵と夜戦し沈没。私は右足をやられ漂流を続け、無人島に上り九死に一生を得て、内地の海軍病院に帰りました。

昭和19年2月、病室で明日手術と云う日に、クエゼリン、ルオット玉砕を開きました。まだ健在であった同年兵。大和田通の次に位するあの強大な六通がやられた。あの珊瑚礁の島に米軍が上陸した。私はああーと思わず叫びました。電信兵だけでも約一〇〇名はいたのでは。その中に大学出の若い優秀な人も大勢いました。

私は今でもあのリーフ、紺碧の海を忘れられません。貴殿の云われました環礁の一日も早く着く事を希っています。

(筆者・クエゼリン第六通信隊よりの生還者)

現地訪問希望についてお尋ね

事務局

ギルバート諸島(タラワ島・マキン島)及びナウル島での戦没者の御遺族の方々、又これらの島々で従軍されたがそこから復員された方々又一度太平洋の環礁とはどんな所か見たいのだから、良い機会があったら知らせて欲しいという御要望を寄せられた方に本部からお尋ねいたします。

昭和三十九年十一月末タラワ島で、タラワ戦25周年の記念祭典を行うが、旅費は自己負担で参加希望の方があつたら招待する旨の本会宛の招待状が、在日英大使館から送られて来ました。その時は取敢えずギルバート諸島関係の会員には、その旨を速報して希望者を募りましたが、当時の航空便は羽田→ホンコン→シドニー→ナンジー→タラワというコースであり、航空運賃だけでも往復五五万四千円、この外飛行機便待ちの宿費等加えると多額の費用となるので残念乍ら本会としても個人としても不可能でした。このことは環礁9号で詳細報告のとおりであります。

本会がクエリン島に建立した慰霊碑は島自身特別地帯という制約があつて、従来全く立入不能であつたが、一昨年に至つて漸く特別許可が得られたので、希望者が、一週間の予定で現地訪問の夢が果されました。このため、

続いてギルバート諸島への訪問を行うよう希望の方が、二、三ありましたが、マーシャル諸島訪問の翌年では、事務局としても充分の準備ができませんので、52年度に実施することになりました。

このため、まず次のような条件で、現地訪問を希望する方の有無を調べた上で、具体的な計画を樹てるといふことにしたいと思います。

- ギルバート諸島(タラワ島・マキン島)及びナウル島を慰霊、訪問するのに船便を希望される方はないと考え、空路往復の便を考えました。
- ギルバート諸島行は昭和43年頃と状況が違いナウル島が
 - 43・1 共和国として独立
 - 46・9 ナウル共和国の日本領事館開設
- 47・12 鹿兒島空港とナウル島とを結ぶナウル航空というのでき、その後その会社の飛行機がタラワ空港に行くという事になりましたので、鹿兒島から出発するならナウル経由でタラワまで行けることになりました。そしてタラワ島往復の航空運賃は往復で22万円内外、期間を一週間と見て、宿泊料その他経費を加え35万円内外となります。50年度マーシャル諸島訪問、慰霊

は32万円でしたのでそれより若干多い額となります。

以上につき次の環礁御参照下さい。

環礁4号表紙 太平洋地図

右の外8頁10頁

9号11頁 タラワへの招待

14号2頁・4頁・7頁

15号8頁・15頁

16号10頁

18号7頁 ナウル島

21号9頁5欄

35万円というお金は仲々容易ではありません。又日本を出ると翌日は酷熱の南洋になります。気温の急変や台風の懸念を避けるため8月上・中旬を選びたいと思います。

私もそろそろ年なので、どなたか团长となつて、おいで願えたら有難いと存じますが、もしこれをのぞめない場合不適当ながら私がお伴いたします。

51年春以来私にギルバートにお伴するよう強くのぞまれた方がありました。諸種の事情からマーシャル行の翌年つづいてのギルバート訪問は無理がともないますのでお断りして52年実施の計画をたてた次第です。

以上の条件で参加ご希望の方は1月10日までに書面をもつて希望をおよせ下さい。

マーシャル行の場合と同様、今後の計画進行の状況は逐一その方々のみにお送りいたします。

ナウル航空会社の時刻表と賃金表

月曜と金曜	土曜	月曜												
<table border="1"> <tr> <td>820便</td> <td> ナウル島 発0630 ウェルム 着0835 グァム 発0920 沖鹿 着1120 沖鹿 発1150 鹿兒島 着1255 鹿兒島 発1340 沖鹿 着1450 沖鹿 発1520 グァム 着1905 ナウル 発1950 ナウル 着0055 </td> <td> ボーイング727 鹿兒島 1間 ナウル 86,750円 </td> </tr> </table>	820便	ナウル島 発0630 ウェルム 着0835 グァム 発0920 沖鹿 着1120 沖鹿 発1150 鹿兒島 着1255 鹿兒島 発1340 沖鹿 着1450 沖鹿 発1520 グァム 着1905 ナウル 発1950 ナウル 着0055	ボーイング727 鹿兒島 1間 ナウル 86,750円	<table border="1"> <tr> <td>320便</td> <td> ナウル島 発1025 ウェルム 着1205 グァム 発1235 ナウル 着1315 ナウル島 発0730 ウェルム 着0915 グァム 発0945 ナウル 着1100 ナウル 発1145 ナウル 着1245 </td> <td> カー1間 ホップ28ル フナタラワ道 20,190円 ナウル片道 19,320円 ボーイング737 ナマ間道 19,320円 </td> </tr> </table>	320便	ナウル島 発1025 ウェルム 着1205 グァム 発1235 ナウル 着1315 ナウル島 発0730 ウェルム 着0915 グァム 発0945 ナウル 着1100 ナウル 発1145 ナウル 着1245	カー1間 ホップ28ル フナタラワ道 20,190円 ナウル片道 19,320円 ボーイング737 ナマ間道 19,320円	<table border="1"> <tr> <td>322便</td> <td> ナウル島 発0730 ウェルム 着0915 グァム 発0945 ナウル 着1100 ナウル 発1145 ナウル 着1245 </td> <td> ボーイング737 ナマ間道 19,320円 </td> </tr> <tr> <td>321便</td> <td> ナウル島 発0730 ウェルム 着0915 グァム 発0945 ナウル 着1100 ナウル 発1145 ナウル 着1245 </td> <td> ボーイング737 ナマ間道 19,320円 </td> </tr> </table>	322便	ナウル島 発0730 ウェルム 着0915 グァム 発0945 ナウル 着1100 ナウル 発1145 ナウル 着1245	ボーイング737 ナマ間道 19,320円	321便	ナウル島 発0730 ウェルム 着0915 グァム 発0945 ナウル 着1100 ナウル 発1145 ナウル 着1245	ボーイング737 ナマ間道 19,320円
820便	ナウル島 発0630 ウェルム 着0835 グァム 発0920 沖鹿 着1120 沖鹿 発1150 鹿兒島 着1255 鹿兒島 発1340 沖鹿 着1450 沖鹿 発1520 グァム 着1905 ナウル 発1950 ナウル 着0055	ボーイング727 鹿兒島 1間 ナウル 86,750円												
320便	ナウル島 発1025 ウェルム 着1205 グァム 発1235 ナウル 着1315 ナウル島 発0730 ウェルム 着0915 グァム 発0945 ナウル 着1100 ナウル 発1145 ナウル 着1245	カー1間 ホップ28ル フナタラワ道 20,190円 ナウル片道 19,320円 ボーイング737 ナマ間道 19,320円												
322便	ナウル島 発0730 ウェルム 着0915 グァム 発0945 ナウル 着1100 ナウル 発1145 ナウル 着1245	ボーイング737 ナマ間道 19,320円												
321便	ナウル島 発0730 ウェルム 着0915 グァム 発0945 ナウル 着1100 ナウル 発1145 ナウル 着1245	ボーイング737 ナマ間道 19,320円												

参考

- ナウルのホテル、メネンホテル、二人部屋三三三
- ナウルの一部屋一人泊るなら二〇ドル、一部屋二人泊るなら一人二〇ドルつづ
- タラワ島マキン島のホテルは問合せ中
- 本文記載のとおり本会々員で十一月下旬タラワ、マキン行団体の参加者があるので二月五日の慰霊祭前夜祭の際に試験をきかせていただきます。なお、このお尋ねに参加と御答の方のうち前夜祭においてにならない方々には前夜祭の様子をわくわくおしらせいたします。

遺族会を探し当てたその喜び

一その六

鳥取 石賀 宗美

一、はじめに

昭和50年2月12日鳥取県倉吉市の石賀様から本部宛突然の電話があった。「一昨10日四国松山市で開催されたヤルート会とき石森義重氏(昭和48年厚生省の中部太平洋戦死者遺骨収集のとき本会浮田会長と同行した方)からマージナル方面遺族会のことを聞いたので帰宅後早速電話をしました」とのことであった。本会の生い立ちから、いままでの経過をお話したところ、大変喜ばれ、遺族会のため、当時の戦地の状況をお知らせしますと云われ2月27日次の手紙を寄せられた。

二、ヤルート会のことども

今年の東京は、六年振りの大雪ですとか。御壮健でお過しでせうか。

さて私は元九五二海軍航空隊(本隊クエゼリン環礁エビジエ島所在)のヤルート島派遣隊長(当時海軍整備兵曹長)石賀宗美です。私がかねがね戦後本隊玉砕当時の名簿を作製し、何等かの形で戦死者の法要でもと考えて居たものです。去る2月10日ヤルート会

(元第62警備隊主体のヤルート島守備部隊海軍側)の第四回大会(一・二・三回迄は九五二空派遣隊員である故62

警の名簿に無かった為招待がなかった)の会合に出席(約130名参加陸軍側大隊長以下一部参加)して痛切に感じましたので一筆お便り申し上げます。

実はかねて復員引揚時に、鳳翔にてウォツゼより引揚げた以前の佐藤深という人から、ブラウン派遣隊は、大艇が飛来して、トラック島に引揚げたとか聞きましたが、何分当時の世情でせう半信半疑で農作業に追われて過して来ましたが、ヤルート会に出席して真実であったことを知り得ました。

それは石森義重氏に再会したことです。石森氏は元我がヤルート派遣隊員です。彼氏と同宿して一夜を語り明し昭和48年度政府派遣マージナル方面遺骨収集団に参加された際の現地の写真等幾多の貴重な資料をお見せいただきました。なかでもエビジエ本隊で私達が使用して居たエプロン滑走路が、其儘残っているかの様子に見受けられた事は、この上ない最高の懐しさを覚えかすかな想い出と司令以下七三二名がどのような奮戦の末、力尽きて玉砕して仕舞われたのでせうかなど想像しては眠れない夜も多くなって頭をいためております。

実際あのような小島で、あのように入砲爆撃で手足をもがれた蟹同然の状態で上陸攻撃されて来たのでは、ひとた

まりもなく玉砕の外に道がなかったことでしたらう。何かの御参考になりませうと存じまして僅かな参考資料をもとに記憶の一端を手記して見ます。

三、エビゼ島に着任

私は昭和17年12月1日呉海兵団准士官学生を途中で第九五二海軍航空隊附を命ぜられ、所在の判らぬまま横須賀鎮守府に出頭、クエゼリン島であることを聞き横浜航空隊から飛行艇便乗でクエゼリン環礁エビジエ島に赴任。零式水上偵察機隊飛行科分隊士に配属されました。

勤務中17年11月敵大空襲がありましたが我隊には大して被害はなく、実戦に關しては「環礁」に他のお方が詳細にお書きになっているようですから、私は省略いたします。

四、ヤルート派遣隊長に転任

18年12月30日堀家司令(私着任当時副長兼飛行長)よりヤルート派遣隊長を命ぜられ受持っていた人事の引継等書面に書き残し、防暑服に軍刀だけで即日ヤルート島零式水上戦闘機の惨骸の残っている砂浜に着岸上陸して見ると格納庫はベチャンコに方々に弾痕(大型爆弾)があつてエビジエ本隊と異つて相当激烈な敵空襲の痕跡が見えました。私は飛行機の点検整備を充分に完了させ、夕方エビジエ本隊には見られなかつた相当堅固と思われる対弾設備のあるビルディング型庁舎の指揮官室に従兵が案内するままに落付き前任

者山本中尉、遠間飛曹長と共に此の部屋で同宿した(両氏共これが最後の別れとなった)。翌朝両氏等と共に飛行機に燃料を塔載入念な飛行機の点検整備を完了して発進させたこと記憶しております。その後間もなく2機が銃爆撃に出撃したが、無事本隊に帰投した様子でホッとした。それ以来エビジエ本隊の飛行機はヤルート基地には一機も飛来しなかつたので寂しい極でした。

私は着任の夜から隊員の掌握、人事(履歴書、考課調査表等重要書類は本隊に保管中のため本人申告で身上調書を書かせる)分隊記事(翻訳等の関係で極く一部のみ持ち帰る)戦闘記事等記録の整備に當つた。又、エビジエ島では見なかつた陸軍部隊古木少佐大隊長(去る2月10日のヤルート会で30年振に面接この上なく懐しかった)指揮の一ヶ大隊が配備されていることを知り少し意を強くした。

上記記録による分隊記事(人事関係)を記載してみませう。

19・1・3 エビジエ本隊復帰を命ぜられていた。

- 主曹長 加藤 義春
- 上工曹 七種 朝人
- 二整曹 浅井 敏雄
- 整長 赤平 良輔
- 整長 横前 只一
- 主長 園田 次男
- 一 整 飯田 昭市
- 一 整 有牛 万治

の8名を菊丸便乗で送還する。同日
19・1・3派遣隊員石賀宗美外34名、
第62警備隊へ仮入隊（1月5日62警備
隊へ仮入隊、1月5日62警備連3号）
を命ずる。

19・1・13

一 整曹 桑原 勉

二 曹 小川 敏 治

水 長 友 末 秋

以上三名エビゼ本隊復帰を命ぜられ
海運丸便乗（1月15日62警備連3号）
で退隊送還した。

19・1・18 二曹 鶴丸 芳 治

ヤルト派遣隊勤務を命ぜられ本日夕

食後入隊（香取丸便乗17日着）

19・1・24頃から連日敵猛爆撃。

26日頃敵艦隊からの砲撃も加って更に
激烈、敵は上陸して来るかなと陸戦武
装を命ずる。庁舎の窓等全滅的破損し
て居住できなくなった。

19・1・28 忘れもしないが電信科の
上曹陳田範美（氏は復員後別府駅助役
等されていたとか）から敵艦隊近接の
入電が本隊から有ったので此処（交信
室北の受信室が最後まで堅牢であった
ため終戦の詔勅拝聴式も升田仁助海軍
少将以下総員集合下で、無念の内に挙
行された。それでも数十発の直撃弾、
至近弾を受けて少しく傾いていた）に
つきっきりで居て下さいと要請される
ままに、電信室に当直指揮した。何時
間経過後でしょうか。「本隊敵上陸開
始、受信報告、返電して下さい」の要

請で「武運長久を祈る」を司令まで打
電を命ずる。本隊暗号書を処分しまし
たとどなる、平文で打てと命令する。
ダクダクの応答も無いまま、それきり
本隊との交信は途絶して仕舞って不安
この上なく、淋しく頭を痛めた。その
後当分の期間、敵の強力な電波封鎖に
会って東京通信隊とも交信出来ず、二
月十日頃になって、新聞電報に依って
二月四日クエゼリン方面部隊玉碎と知
り痛哭の極でした。そこで、

19・2・22 62警備隊司令の指揮下に
入り航空小隊と呼称する陸戦隊を編制
航空機用機銃で地上移動銃架を作って
貫い射撃演習を開始し、陸戦に備へ
た。冷却不足のきらいは有るが、苦肉
の策で何もないより増しだった。

19・3・18 呉鎮在籍下士官兵呉空に
転出方発令さる。（これで我々が当地
に生存していることが判っているの
か。かねて東京通信隊との定期交信で
生存者報告をしていたのだから？）

実のところ復員時英霊の方が先に帰
宅していて家族、遺族会長を驚かせた
（20・9・2他の62警備士官以上は特
進されたのに俺だけには進級が来なか
った筈だと察知できて敗戦悲哀を痛切
に感じさせられた。これはどうも私事
に及びまして）（次号につづく）
（筆者・エビゼ島よりヤルト島へ
の派遣隊長。復員）

九五二空会と

その慰霊祭

九五二空とは海軍の九五二航空隊
のことで開戦当初は第十九航空隊と呼
称し、2座水上偵察機六機、3座水上
偵察機六機からなり、第六根拠地隊の
所屬であった。その後隊名を九五二
航空隊と改められた。

この航空隊は一部をブラウン島に派
遣又一部をヤルト島に派遣した。不
幸にしてエビゼ島に残留した本隊は19
年2月6日に堀家義一司令以下四七〇
名の隊員全員が玉碎戦死及び、ブラウ
ン島に派遣された一五〇名中塔乗関係
員若干名が転動のため島を去った外は
玉碎した。ただヤルト派遣隊長石賀
守美氏以下33名の大部が生還したに過
ぎない。

本会が昭和39年2月靖国神社で二十
年祭を行ったとき、これを知って、お
手伝に馳せ参じて下さり、その後、43
年京都での本会の慰霊祭にもご協力下
さり、又環礁20号、21号に「ブラウ
ン玉碎直前の四十日」を執筆下さった岡
山県の高田源次郎様とヤルト派遣隊
隊長石賀守美様の御企画によって、51年
10月7日岡山市護国神社において、33
年祭がとり行われた。

祭典終って、宮司様から一同に御挨拶
をいただいたが、本号秋山正清様巻
頭の辞と同趣旨であり極めて印象的で

あった。

その後バスで、晩秋紅葉の山陽道を
西走し、倉敷市有城の山上山陽ハイッ
に着いた。この会としては、戦後はじ
めての集りであり、今後について熱心
な協議が行われたが、かねて念じてい
た同じ戦場での戦死者に対し、遺族と
共に、充分にその霊をお慰めしたいと
いう念願が叶って嬉しかった。毎年と
は行かなくとも、続けて行きたい。そ
してその名も九五二空会としたいと話
がまとまった。次回は大阪で在任会員
の企画によって行おうと議決された。戦
後33年、いろいろの思い出、すてがた
く、何時までもつづいた。

夕食は生還者と遺族別室で行われ
た。生還者は苦闘30年後の再会であ
る。祝いあいたい。話したい。酒も交
はしたい。戦友愛のほほえましさ。戦
争中の御苦労を心から感謝申し上げ
た。また別室遺族の宴会場では、もし
元気で帰って来てくれたらという一抹
の淋しさも無いではなかったが、知り
たいと思っていたことが、石賀様、高
田様外入り替り立ち替り、おいで下さ
って貴重な体験談をお聞かせ下さった
ので大きな安堵を感じ、次回この催し
には是非お誘いをお願ひした。

翌日はバスで、午前は倉敷の旧蹟を
午後岡山の名所をご案内いただいた
た。二日に亘る生還者ご一同の、温い
お気持に深く感銘しつつ、岡山駅でま
たしばらくのお別をした。

昭和五十二年二月六日(日)

前夜 祭 〓 五日
 慰 霊 祭 〓 六日
 直会旅行 〓 六日・七日
 靖国神社
 甲府・石和
 東京青山会館
 の御案内

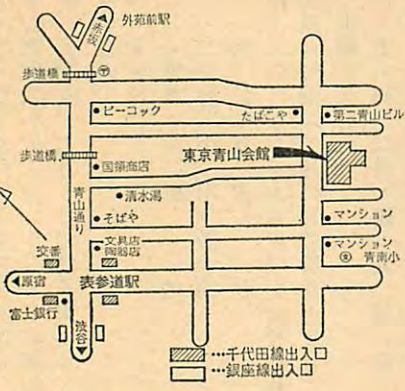
恒例の二月六日前後の行事について御案内申し上げます。

◎前夜祭 二月五日夜 五時―八時
 会場 東京青山会館

港区南青山四一七―五八
 電話〇三―四〇三―一五四一

地下鉄 〓 銀座線、千代田線共に表参道駅より徒歩十分

前夜祭は今まで九段会館で行っていましたが、今年はお場が異なりますのでお間違いないよう御注意下さい。本会の、次の現地慰霊を、ギルバー



ト諸島方面のマキン、タラワ、ナウルの各島と予定し企画中でありますので、今年の前夜祭には最近これ等の島々に行つた方や戦時中同方面に居た方々をお招きしてお話を伺い、懇談することにしてあります。

前夜祭に参加御希望の方は、一月十日迄に会食代として一人三、〇〇〇円添えお申込み下さい。

◎宿泊について
 宿泊の予約は次の通りお受けします
 二月五日 東京青山会館(四二人迄)
 (朝食付 二、八〇〇円)
 二月六日 九段会館(五人迄)
 (二食付 三、七〇〇円)
 二月七日 九段会館(一五人迄)
 (二食付 三、七〇〇円)

宿泊のお申込は、氏名、年齢、男女別、希望の日をハッキリ書いて一月十日迄に料金添えお申込下さい。

東京青山会館に宿泊した方は、六日朝バスで靖国神社迄お送りします。

◎定期総会と慰霊祭(二月六日)
 午前九時 受付開始 靖国神社
 午前十時 定期総会
 午前十一時 慰霊祭

正午終了解散の予定。
 ◎直会旅行会(二月六日・七日)
 乗物 全行程大型観光バス
 宿泊 山梨県 石和(イサワ)温泉
 ホテル八田(ハッタ)
 電話〇五五二六二一三一〇一
 費用 小学生以上 一、二、〇〇〇円

(六日の中食、バス代、宿泊料、拝観料、入場料、七日の中食までの一切の費用)
 ただし、この計算は、バス一台を一万五千元(四十五人乗車)としてありますので、その時の実情により多少変更することもあります。

申込 一月十日迄に、氏名、年齢、男女別を書き、料金添えお申込みください。申込順に受付けて、一月十日又は一〇〇名に達した時を以って締切りますのでお早日にお申込み下さい。

コース 二月六日(日) 正午、中食の弁当を積込んだバスは、靖国神社境内から首都高速、中央高速道路を一路山梨県に向います。途中武田家ゆかりの恵林寺(エリンジ)にお詣りし、宝物等拝観してから、石和温泉のホテル八田に入ります。

神経痛、リュマチス、婦人病に特効のある湯に浸ってから、本会ならではの楽しいなごやかな直会になります。

二月七日(月) 奇巖怪石で有名な昇仙峡にバスを走らせ、甲府に帰って武田神社、山梨宝石会館を経て石和のバ

ブリックランドで中食。ブドーの町勝沼のマンズワイン工場を見学してから中央高速道路で東京に帰ります。東京駅着は午後六時と予定しておりますが、交通事情で多少前後するかも知れません。

見どころとおみやげ
 恵林寺は、臨済宗妙心寺派の名刹というよりも、天正十年四月武田家滅亡に殉じた快川国師が、織田軍の兵火に包まれた山門楼上で「心頭を滅却すれば火も亦涼し」と唱え、百余人の僧と共に火定入滅した物語りが思い出されます。宝物殿には重要文化財や武田家家宝の数々、武田家軍旗「風林火山の旗」など見るべきものが沢山あります。

奥の庭園は、恵林寺開山夢窓国師の作といわれるわが国の代表的名園で、国の特別名勝史跡に指定されています。

武田神社は、武田信虎、信玄、勝頼の三代六十三年間の館跡にあります。一見して「人は城 人は石垣 人は堀 情は味方 仇は敵」の言葉がうなづかれることでしょう。

宝石会館には、わが国初めての宝石博物館があり、宝石に縁のなかった者が見ても楽しめます。展示即売場では五〇〇円から百万円位迄のものが市価の二、三割安で求められます。

パブリックランドには、生ブドウ、月の雫など甲府名産品があります。マンズワイン工場では、ワインの試飲を用意しております。

寄付者芳名

(六八名)

今期も多数有志の方からの御寄附を頂き、厚く御礼申し上げます。本誌前号で会費値上げの事をお諮りしましたところ別記の回答を頂きました。ただ本会の性格上会費の値上げ幅はなるべく少くなめに止め、従来どおり有志の御寄附に依って収支を償ってゆくことが望ましいのではないかと思います。かねての御協力に対して厚く御礼申し上げます。
 (昭和51年6月1日から昭和51年10月31日までに入金の方)

寄付額 芳名 (敬称略)

篤志会員その他

〇〇〇〇	井上 義夫 殿	〇千葉県	弟 田中 章	〇愛知県	二〇〇〇〇	妻 吉田 ヌキ
〇〇〇〇	小林 重雄 殿	〇三都府	妻 津久井艶子	〇静岡県	一〇〇〇〇	母 小山内小美賀
〇〇〇〇	長谷川 博 殿	〇京都府	弟 高山 貞男	〇三〇〇〇	兄 川村 正一	妻 竹中 ヌキ
〇〇〇〇	土屋 太郎 殿	〇一〇〇〇	母 池沢 りん	〇大坂府	四〇〇〇〇	妻 大畑はるゑ
〇〇〇〇	成宮芳三郎 殿	〇四〇〇〇	兄 為貝隆之助	〇父 粟巢弥一郎	〇〇〇〇〇	母 古川 たけ
七〇〇〇	岩村 光男 殿	〇二〇〇〇	弟 大高 吉郎	〇母 岡本 くま	〇〇〇〇〇	妹 井上 照美
〇〇〇〇	母 金子 きよ	〇〇〇〇〇	妻 荒井 福栄	〇鳥取県	〇〇〇〇〇	妻 名児耶アキヨ
〇〇〇〇	父 北村弥三郎	〇〇〇〇〇	妻 佐竹 エス	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	妻 内富みつゑ
〇〇〇〇	妻 田村 ヨシ	〇〇〇〇〇	妻 鈴木つな子	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	妻 児玉 富子
〇〇〇〇	父 西村 保	〇〇〇〇〇	母 吉田 いそ	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	妻 下村チエヨ
〇〇〇〇	兄 池田 精治	〇〇〇〇〇	母 加藤きくや	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	母 多田 マス
〇〇〇〇	妻 工藤 ハナ	〇〇〇〇〇	長男 小早川宗一	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	妻 伊藤 梅子
〇〇〇〇	妻 栗石 ハツ	〇〇〇〇〇	長女 松岡 巖	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	妻 近藤 幸恵
〇〇〇〇	父 千田徳兵衛	〇〇〇〇〇	吉永 梅子	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	妻 小林オカツ
〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	母 大坪チトエ
〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	妻 森 キヨ子
〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	母 小川 オカサ
〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	兄 小川 直衛
〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	母 土工あぐり
〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	妻 山内 キク
〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	弟 出花 利文
〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	妻 金城 カナ
〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	妻 野原カマド
〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	妻 野原カマド
〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇	妻 野原カマド

〓 会員だより 〓

鹿児島 出花利文

暑中お見舞申し上げます。実は去る昭和49年4月9日父出花池栄が85才でこの世を去りました。私の兄出花重利は第六潜水艦基地隊員としてクエゼリン島で従軍しておりましたが、昭和19年2月6日同島玉砕のとき戦死いたしました。以来皆様方の並々な御尽力によりまして、この方面の島々で戦死した将兵のみたまをお慰めいただき誠にありがたうございます。小生も父の後継者として、兄のみたまを慰める意を固め、今回から皆様方の御厚意に報いたいと存じますのでよろしくお願いいたします。
 (鹿児島県 51・8・30受)

滋賀 小林寿賀子

本部役員の皆様、長らく御無沙汰ばかり致しております。申して誠に申し訳ありません。何時も私達の会のため、何かとお世話下され本当にありがとうございます。去る七月には、環礁をお送り下さりまして、嬉しく、懐かしく拝見させていただきました。
 早速お礼状をと思いつきながら日が立つてしまいました。あしからずお許し下さいませ。私が中風になりましてから八年になります。二十年祭にお参りさせてもらってから、参拜にゆくきかもなく皆様のことを偲びつつ、環礁をたよりに、不自由ながら孫らと共に、にぎやかな日々を送っております。

ほんのわずかですが、同封しましたのでお受取り下さいませ。乱筆にて失礼ですが今後ともよろしくお願ひします。

(クエゼリン61警備隊にて戦死の小林喜八郎殿妻、51・9・2受)

事務局だより

○「クエゼリン島の今と昔」について

本冊子は、肉親戦死の状況につき林幸一様、松平永芳様、長谷川敏様が御執筆、本会発会時我々遺族にとり暗夜の灯台に優る戦史でした。増刊の希望もありましたが環礎22号での理由通り戦記シリーズに転載することになり、本号で完了したことを報告致します。

○靖国神社春秋例大祭と千鳥ヶ淵墓苑
靖国神社は4月22日と10月18日には曜日如何を問わず、春と秋の例大祭を行って下さいませ。その日は勅使参向の午前10時から例大祭当日祭が執り行われますが、そのときの御案内状は本会も毎回いただいております。このことは数年前の環礎でお知らせし、参列希望の方を募りました。私は戦前からの関係があって殆んど毎回参拝させていただいておりましたが、何故かこの日のお参りをすませるとホッと安心します。

今年の秋は山梨の望月とよ子様と埼玉の藤田きよせ様と御一緒し、上天然に恵まれたので、参拝後千鳥ヶ淵墓苑をお参りました。

本会の定例慰霊祭は厳寒の候のため特にお年寄りの方には無理と思えますが神社の例大祭は春、秋共一番気候のよろしいときです。どうか御遠慮なく本部あて例大祭案内状御請求下さい。

○郵便振替用紙変更の件

郵便振替事務をコンピュータで処理することになったため振替口座番号が変更され、振替用紙も変わりました。今回同封、お届けしたのが新しい用紙です。今までのものをお持ちの方は、早速破棄し、今後は新用紙で御送金下さい。用紙御入用の方は事務局にお申付下されば、お送り致します。

○会費値上げについての回答109通内訳

- 二〇〇〇円以上 3
- 二〇〇〇円 49
- 一五〇〇～二〇〇〇円 2
- 一〇〇〇～一五〇〇円 22
- 一〇〇〇円 2
- 二二〇〇円 2
- 値上げは賛成。役員一任 21
- 値上げすべきである 6
- 値上げは極力少額にとどめ、寄付を増やす 3

○戦史叢書のことども

環礎17号でこのことをお知らせしたところ約100冊希望者にお世話した。同叢書は51年8月を96冊目を発行。一応完成した。あと叢書補遺六巻昭和54年度を目前に編纂される。全巻浮田宅書庫にあるので、御希望あれば調査に応じます。

○浜木綿だより

昭和48年11月クエゼリン環礎にゆきましたとき、贈られた浜木綿は、次第に球根がふえて、小さいのを加えると70個を超えました。2月6日の慰霊祭

謹賀新年

昭和五十二年元旦

◎本会役員及び篤志会員

名誉会長	朝香鳩彦	篤志会員	板垣 徹
顧問	朝賀 織之助	篤志会員	大野 克一
相談役	古香 孚彦	篤志会員	嘉村 栄
会長	浮田 信家	篤志会員	木ノ下 甫
副会長	佐藤 宗丞	篤志会員	ケイス・エス
常任幹事	井上 賀雄	篤志会員	ウイリアムス
常任幹事	佐竹 エス	篤志会員	瀬 沼 光 久
幹事	秋山 正清	篤志会員	千 葉 秀 夫
幹事	荒木 常子	篤志会員	土 屋 太 郎
幹事	宇田川 ヒサ	篤志会員	徳 原 勇 子
幹事	岡野 正文	篤志会員	同 島 昌 彦
幹事	木下 満子	篤志会員	中 田 虎 一
幹事	木村 久子	篤志会員	成 田 喜 代 治
幹事	国松 ふみ江	篤志会員	西 村 祐 造
幹事	小泉 文江	篤志会員	長 谷 川 栄 次
幹事	高橋 功夫	篤志会員	長 谷 川 敏 次
幹事	高林 芳夫	篤志会員	林 幸 市
幹事	土岐 達雄	篤志会員	松 平 永 芳
幹事	橋口 利雄	篤志会員	村 岡 達 志
幹事	昼間 栄平	篤志会員	横 溝 幸 四 郎
幹事	山浦 信子	篤志会員	安 藤 サ ヨ
幹事	末広 正男	篤志会員	白 鳥 悦 子
幹事	大高 吉郎	篤志会員	本 木 光 江

本 部

郵便番号一五四
東京都世田谷区野沢
三丁目十一番二号
マーシャル方面遺族会
電話(東京)511-2000番

前にかねて御希望の方々にお送りいたします。

現地は常夏の地にありますので、環礎10号の1頁クエゼリン慰霊碑の周囲に7、8本見えますような大きな株になります。日本の温度では低すぎるのか、丸3年になるのに球根の径は3センチ位にしかありません。(浮)